

## 世代別・職業別タウンミーティング(要約)

テーマ：農業振興について

平成27年3月27日（金曜日）

【市長】 皆さんこんにちは。今日は年度末のお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。松山市農業協同組合の森映一代表理事組合長、そしてえひめ中央農業協同組合の菅野幸雄代表理事理事長には、心から感謝申し上げたいと思います。このタウンミーティングは、私が市長に就任をさせていただいてから始めさせていただきました。まずは地区別のタウンミーティングから始めました。松山は何地区あるのかというと、松山・北条・中島の全部を合わせて41地区に分かれます。市役所職員は市役所で皆さんが来られるのを待っているほうが楽ですけれども、果たしてそれでいいのでしょうか。我々から41地区に出向いて皆さんの声を聞かせてもらいましょう。そして各地区の課題は減らして魅力は伸ばすタウンミーティングをしましょうと始めさせていただきました。市長の任期は1期4年48カ月ですから48カ月で41地区、1カ月に1回のペースで回らせていただいたらと思っていたんですけども、この松山市版のタウンミーティングは、聞きっぱなし、やりっぱなしにはしないタウンミーティングです。皆さんからのご意見に、できるだけこの場でお答えをして帰る。中には例えば国と関係をする案件、また県と関係をする案件、財政的な問題があるものもありますので、いい加減な返事をして帰るわけにはいきません。そういうものはいったん持ち帰らせていただいて、国に問い合わせる、国から返事が返ってくる、松山市としての方針をまとめて皆さんにお答えをする。また、同様に県に問い合わせ返事が返ってきて、松山市としての方針をまとめて出す。財政的な問題があるものは検討させていただいて必ず返事をする。1カ月を目処に必ず返事をするタウンミーティングをさせていただいています。おかげさまで好評になりまして、1巡目のタウンミーティングは2年2カ月で41地区を全部回り終え、1期4年の中で二巡りさせていただきました。おかげさまで私は2期目に入らせていただいていますけれども、2期目のタウンミーティングは、これまでやってきた地区別のタウンミーティングもやっていきますけれども、職業別のタウンミーティングをさせていただこう。そして世代別のタウンミーティングもさせていただこう。1期目のときにやらせていただいたのですが、子育て世代の方々に集まっていたいただいてタウンミーティングをしたら非常に勉強になりました。また職業別では今日が1回目ですけれども、農業に関わる皆様方に集まっていたいただいて、松山市のやっている施策はこれでいい

のか。もっと皆さんと意見交換をさせていただいて、こういうふうにしたら松山の農業はもっとよくなる。そういう意見交換ができたらと思います。まずは今日、職業別の第1回タウンミーティングであります。毎回申し上げているのは、タウンミーティングは90分間やらせていただきますけれども、肩ひじ張っていると疲れてしまいます。あまり肩ひじ張らずにぎくばらんな意見交換ができればと思いますので、今日はどうぞよろしく願いいたします。

【司会】 本日は農業について専門的知識をお持ちの皆様と議論を深める中で、これからの農業政策に生かせるよう勉強させていただきたいと考えています。それでは、意見交換を始める前に、松山市の農業について市長からご説明します。

【市長】 まずは松山市の農業に懸ける思いを2分ほどにまとめておりますので、お聞きいただけたらと思います。まず日本全体の話からいうと、皆さんご存知のように現在日本の農業をとりまく環境は、過疎化であったり、高齢化であったりと、担い手の減少が生産力の低下を招いています。農地は荒廃してしまう、耕作放棄地は増えてしまう。非常に厳しい状況と感じています。そもそも農業は大事であって、中山間地域や農業地帯で農業生産活動が行われて、市民の皆さんに食料やそのほかの農産物を安定して供給するという役割があります。また自然環境を守ってくれるという一面もあります。また、水の源を養ってくれる、すばらしい景色を守ってくれるということもあります。そして文化を伝えてくれるという役割もあります。農業が持つ役割は非常に大きくて、松山にとっても将来にわたって不可欠な産業だと考えています。こうした中、担い手を育てること、確保すること、生産活動を総合的にサポートして生産者の所得向上につなげることで農家の経営の安定化を図り、持続可能な力強い農業を実現するため国や県とも歩調を合わせて、松山市の農業の実情に見合う策を展開していかなければと思っています。松山では近年、主要な柑橘である温州みかん・伊予柑の価格が低迷し、消費者ニーズが多様化する中、産地間の競争は激化している。柑橘農家の経営は非常に厳しい状況となっております。また今日、お話できればと思いますが、私はこれまでトップセールスによるまつやま農林水産物ブランドの販路の開拓、タウンミーティングでご意見もいただいた有害鳥獣対策の強化など重点的に取り組んできました。2期目の公約の中では、これらを継続していくことはもちろんのこと、転換品種としてアボカドとかライムの産地化を掲げ、農業振興を継続・強化していきたいと考えています。行政だけでできることは限られますので、生産

者や生産者を支える皆様方とご相談をさせていただきながら、色んな策を展開していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【司会】 それでは、本日のテーマに沿っての意見交換に移ります。テーマ「担い手育成について・所得の向上に向けた取り組みについて」ご意見がある方は挙手をお願いします。

【男性】 松山市農協です。私は認定農業者また新規就農者に対する支援について意見を述べさせていただいたと思います。松山市は色々な地域がありますけれども、色々な地域で農産物の生産が非常に盛んでございます。今、スライドにありますのが興居島の柑橘でございます。この方は青年就農給付金をもらわれて就農をしている方でございます。平坦地に行きますと白ねぎでございますが、愛媛県の中でも白ねぎの生産は松山市農協が一番でございます。この方は認定農業者で販売促進も積極的にやられている方でございます。次、お願いします。向こう側にあるのは南第二中学校ですが、市内で麦の生産も非常に盛んでございます。南部生産組合といまして、麦の生産法人でございますが、この方が組合長をされていまして、麦の生産も非常に最近増えてきているところでございます。こういったところで認定農業者を中心に生産を行っていますが、残念ながら非常に生産者が減っております。そういったところで今後とも認定農業者については今までどおりの手厚い支援をお願いしたらと考えております。国とか県も機械や施設等の整備についての補助もあるわけでございますが、今後も松山市にそういったことを十分手厚く支援をしていただいたらと考えております。あと、新規就農者の関係でございますけれども、今、国の青年就農給付金ということで150万円×5年という非常に大きな支援がありますので、これによって松山市内の新規就農者も増えております。約30人と聞いているんですけど、この青年就農給付金は条件がございますので、自立経営であったり年齢制限というところで、もらえない方もいます。松山市内は非常に積極的にご活用いただいております。認定も非常に多いわけでございますが、認定にもれる方には松山市農協も独自に資金を渡しております。今年からの募集ですけれども、1年で20万円×最長で5年という支援の資金を農協独自で構えまして、新規就農者に対して支援をするということで、条件等も非常にやさしくなっております。そういったことを農協もやっておりますので、ぜひ松山市もこういった支援についてご支援ができるようでしたら今後考えていただくこともお願いしたいと考えております。新しく始められる農業者の方がいないと松山市内の

農業はこれから伸びていかないと考えておりますので、今後ともよろしく  
お願い申し上げます。

【市長】 どうもありがとうございました。まず設立50周年を記念して  
2千万円の給付総額ということで心から敬意を表したいと思えます。これ  
は具体的な案件になりますので、課長からお願いします。

【農林水産課長】 今、市長が申しましたが2千万円の基金、松山市農協  
さんのご英断に敬意を表します。心強い限りです。果樹や野菜に対して松  
山市は単独で補助事業を行っています。新規就農者や認定農業者とか担い  
手に対しては緩やかな制度にしていますので、極力ご活用いただけたらあ  
りがたいというのが1点。松山市農協の2千万円の基金は、青年就農給付  
金が国費事業ということで、割と条件が厳しいことに対して、緩やかに後  
継者をつくっていきこうということなので、この2つの制度をうまく組み合  
わせながら、松山市としても宣伝等を務めながらできる限りの協力をさせ  
ていただきたいと思えます。

【市長】 今日のキーワードじゃないかなと思うんですけども、J A松  
山市さんとえひめ中央農協さんと、やっぱり松山市だけがやっていたら1  
になってしまうんですけども1+1が3になり4になり、例えば松山市  
がPRにちょっと一役買ってと言っていたら、例えば松山市のホーム  
ページを活用して農協さんではこういうのをされていますよという周  
知もできますので、色んなことで連携ができればと思えますので遠慮なく  
言っていただけたらと思えます。私の思いですけども、全国の市長の中  
では農業に理解のある市長ではないかなと思っています。実家が北条で田  
んぼや畑、今は12年生まれの父と16年生まれの母ですから今年78歳  
と74歳になりますので、さすがに手が回らなくてみかん山は手放してい  
ますけれども、畑やみかん畑があります。私も昔から農業体験があります  
から、農業がどれだけ大事なものは知っているつもりです。暑さを避け  
るために朝早くから仕事をするとか、だからといって早く寝られるわけ  
ではなくて夜には選別が残っていたりとか、こうやってオフィスで机がある  
椅子があるというわけではなくて冷暖房もない屋外で皆さん頑張って働  
いている。みかんも二度切りしないとイケないんだよと小さいときに教え  
てもらっていますし、昔は稲木で干していましたから稲を持っていくとき  
に首がどれだけかゆかったかというのを覚えています。そして前の仕事で  
20年間、色んな農業の生産現場に行かせていただいて苦勞と工夫を見せ  
ていただいたので、全国の市長の中では比較的農業に理解があるほうでは  
ないかなと思っています。これから農業をやっていただく方がいなくなる  
のではいけませんので、担い手の支援も進めていきたいと思えますので、

またご協力をよろしくお願いいたします。

【男性】 えひめ中央農協です。私は新規就農の担い手を主に担当しているわけですが、私からの質問はJ Aが整備する営農の定着のための就農開始園地に対する助成について、現在の農協の取り組み状況なども説明しながらさせていただいたらと思いますのでスライドをお願いします。これはえひめ中央の柑橘の研修圃場です。新規就農者を対象に研修をできる園地をつくりたいということで、堀江町に1.4ヘクタールの研修の場所を平成25年の4月につくりました。

【市長】 景色からいうとバイパスのトンネルの上あたりですか。

【男性】 バイパスの1つ目のトンネルの上ですので、また見に来ていただけたらと思います。新しい就農研修生を日々研修している状況です。27年度から新たに野菜の研修圃場を設置して、野菜をつくりたいという研修生を対象に野菜の圃場も今後やっていく予定になっております。現在の農作業支援と就農研修生の受け入れ状況ですけれども、農作業支援専任と書いてありますが、農家の農作業支援等を3名の職員が現在やっております。新規就農研修生は農協が臨時職員ということで雇って、農家の後継者と新規の就農者3名を雇って、先ほどのスライドにあった堀江の研修園、それと農作業支援を通じて研修をしております。昨年9月から青年就農給付金（準備型）を利用して研修生が現在3名来ているという状況です。松山東と書いているのが、伊台の方2名と伊予の方1名ですけれども、この3名の方は先ほどの研修園地、また農家研修を通して技術の習得をしています。今後の予定ですけれども、4月から新規就農研修センターが新しくできます。新たに研修生の受け入れを順次拡大をしていく予定となっております。今年度の予定は、短期研修（1年）コースは5名程度、中期研修（2年）は就農給付金準備型を利用して研修を受けられる方で3名の予定をしております。長期研修（3年）コースは臨時職員になるのですが、今は受け入れはしていません。27年度の合計は研修生が14名で、今後ずっと増えていき、29年度は研修生20名という目標を持って、現在のところ取り組んでいる状況です。次は耕作放棄地を利用したJ Aによる就農開始園地の整備ということで載せさせていただきました。ここは、現在国の「耕作放棄地再生整備事業」に対して松山市さんにも上乘せの助成をいただけて現在整備が進んでいるところで、大変お世話になっております。今年度中には完成予定となっております。現在、研修生で来ている方の就農予定園地の整備というかたちで約50アールを予定しております。品目は紅まどんな・はれひめ・夏秋胡瓜で、整備に要した費用は研修生が制度資

金を利用して返還しているわけですが、今後、研修生が増えていく中で新たに研修生の圃場を整備していかないといけないということになっております。そこで耕作放棄地以外のところで研修生の就農園地を探していくわけですが、そういうときに老木園、または改植する品種の更新をJAが行う場合、就農者の負担を軽減するために導入する苗木とかそれにかかる資材に対してのさらなる助成をお願いしたいと思っています。

【農林水産課長】 先ほどの松山市農協さんに引き続き、えひめ中央さんの取り組みを見させていただきました。本当に心強い限りです。では、具体的にご提案をいただいた苗木と施設に対してお答えさせていただきます。まず苗木に対する助成ですが、農業指導センターが柑橘や野菜の苗を栽培しています。ただ、品種数量に限りがありますので苗の供給は農林水産課へご相談ご協議いただけたらと思います。次に資材に対する助成ですが、国や県の事業の対象とならないものは、既存の市の有望品種の施設整備支援事業をできるだけご活用いただけたらと思います。27年度からは農業特有の加入障壁、技術習得の困難さとか農地の確保の困難さとかをできるだけ取り除いて、新たな就農者、担い手を確保しようと松山市も取り組んでいきますので、こういう中で検証しご相談しながら、またよりよい担い手育成の方策を立てていきたいと思っています。よろしく願いいたします。

【市長】 キーワードになると思うんですが、来年度からなので4月1日からですけれども、先ほど課長が申し上げた「多様な担い手育成支援事業」というのを始めます。これで皆さん方と一緒に連携をして担い手育成に努めていけたらなと思います。これまでタウンミーティングを重ねさせていただいて、この写真を見るとまず感じるのがイノシシの住み家になるんじゃないかなと思うんですね。皆さんもご存知だと思いますが、愛媛大学農学部には武山絵美先生という有害鳥獣の対策の専門の先生がいらっしゃいます。私が安居島の方々の声を聞かせてもらおうということで、安居島に行く船の中でたまたま先生もそちらの方向に行く用がありご一緒しました。猿が里山に下りてきて農作物を食べる被害を防ぐというモンキードック事業をやり始めたのは、武山先生とその船の中で話したのがきっかけになっているんです。「長野県で10年前ぐらいからやり始めいるモンキードック事業ですけれども、やってみますか、市長さん」、「ちょっとでも効果があるんだったら、やってみたいです」ということで始めています。いろいろ武山絵美先生から話を聞いていますので、これを見たらイノシシの住み家になるんじゃないかなと思ってしまうんですね。ですから耕作放棄地があると虫が発生してきれいに手入れをされている園地に虫が飛ん

でいってご迷惑をかけるということもあるでしょう。イノシシの住み家になるんじゃないか、猿が下りてきやすくなるんじゃないかとも思いますので、皆さんと連携しながら担い手の育成に努めていきたい、耕作放棄地も少なくしていきたいと思っていますのでよろしく願いいたします。

【女性】 松山市農協です。私からは松山市の農林水産物ブランドにもなっています松山長なすにつきまして市長のご意見をお聞かせ願えたらと思います。松山市の農林水産物ブランドになっております松山長なすですが、こちらは地域の特産品となっております、最近でも農協内で新規の生産者の方が何名か入っております。この長なすですが夏場の野菜としてはハウスではなく、路地で作る野菜の中では非常に所得が安定するという点もありまして、専業で農業をされている方にとっては非常に重要な品目で松山市農協でも力を入れて取り組んでおります。ただ、こちらの栽培は非常に技術が必要になってくるために、生産者によって収量とか品質に非常に差があるというところが現在の課題となっております。その対応策として自動灌水施肥装置というものがあるので、その設置に対する支援等を松山市でお願いできないかと思って質問をさせていただいております。なすをつくる際ですが、夏場の暑いときにつくる野菜ということで、作業をされる農家さんにも非常に負担がかかるのですが、なす自体も作り方によって全く生育とか収量が変わってきます、最終的に収穫量にも大きく影響してきます。松山市農協内でも多い方ですと1反あたりの収量が10トンを超える方もいますが、少ない方になると5トンを切って3トンですとか、同じ生産者の方でも非常に差が出てくるということで、できるだけ安定させるために水やりをする作業と、それと同時に肥料を非常に必要とする野菜ですので、その肥料も自動ですることによって生産者間の差を無くして、新しく専門的に農業を行っていくという生産者の方にも安心して取り組んでいただけるようにできるのが、ソーラーパネルを活用した自動灌水施肥装置です。圃場内にソーラーパネルを設置しまして、畝にマルチを貼ってそこになすを植えるんですが、その畝に灌水用の点滴チューブを設置しまして、そこに水やりの水と肥料を順番に収穫栽培中に何度か行う追肥をする作業をこの灌水をする点滴チューブで一括にできる装置となっております。また、このソーラーパネルを利用することで、日照量で稼動が変わってきますので、非常に暑いときは電気もソーラーパネルがしてくれますのでしっかり灌水もできますし、曇っているときはそれほど水やりも必要ないということで、それもソーラーパネルが自動でやってくれる。特に松山市は夏場に水不足が心配されますので生産者の方々も

不安になるのですが、この装置を使うことで必要なときに必要なだけ適量を灌水することができますので、農業に関しての水不足への点でも非常にいい方向に解消できるのではないかなと思います。今後、専業で農家を取り組まれる方の高齢化もありますし、できたらこういう装置を支援していただきたいなと思ひましてご意見をお聞かせ願えたらと思ひます。お願ひします。

【市長】 はい、わかりました。これは私から述べさせていただきたいと思ひますが、おそらくできると思ひます。今まで松山市はこれまで3年間「地元野菜等産地活性化事業」というのをやってきましたので、やってきたことの検証はやらないといけないんですけども、JAさんともお話をしながらやっていけないかどうか検討したいと思ひています。実は今、ふるさと納税とって各地で盛んになってきて知られるようになってきていますが、ふるさと納税で額を納めていただいた方にお返しを渡すのですが、松山長なすはふるさと納税でのプレゼントでも非常に人気のあるものになっています。JA松山市さんが推進している野菜の中でも重要な位置付けであると聞いていますし松山らしいですよ。松山サンシャインプロジェクトとていまして、太陽光発電企業さんをできるだけ誘致しようとか太陽光発電を進めていこうと松山市はやっていますので、太陽光でやる、松山の水事情も考えていただいたものですので、すごく松山らしいと思ひますのでできるんじゃないかなと思ひています。前向きに捉えてJAさんとお話をしながら進めていきたいと思ひています。

【男性】 えひめ中央農協の生産指導課です。私からは愛媛県オリジナル品種である紅まどんな・甘平とていったものの推進についてお願ひをしたらと思ひます。今現在の紅まどんなの生産面積ですが、えひめ中央農協管内で今現在62ヘクタール紅まどんなが栽培されております。その内松山市が27ヘクタールあるわけですが、それは今現在松山市からいただいております施設化の推進事業のおかげでこれだけの面積が増えたのかなと思ひております。なおこれを平成32年に目標50ヘクタールまで松山市管内で増やしていきたいと思ひますので、引き続きこの施設化推進事業の継続をお願ひします。それと甘平の面積拡大も書いてありますが、今現在えひめ中央管内で67ヘクタールのそのほとんどが松山市ということて46ヘクタールあるわけですが、これも将来的には100ヘクタール、松山市管内で70ヘクタールに増やそうという計画があります。ただし、甘平は夏場に雨が降らない中で乾ききったところに雨が降りますと、パチンと割れて生産量が安定しないという問題があります。そういったところて、



甘平に対する点滴灌水とか灌水施設に助成をしていただけないかなということをお願いしたいと思います。それともう1つ、ここにありますのは中古の施設です。こういった遊んでいるハウスがかなりあるわけですが、これは耐用年数を過ぎているということで、以前に助成を受けて建てたハウスかもわかりませんが、こういった耐用年数を過ぎたハウスを有効利用するために、これを移設するための費用について助成事業はないかなということ松山市をお願いしたいわけですが、そのあたりのご回答をよろしくお願いいたします。

【市長】 はい、わかりました。中古ハウスは担当からお願いします。この前に紅まどんなの生産地に行ったときに、農家の方に「紅まどんなはどんなですか」と聞いたら「面白いです」と言われるんですよ。これは私も嬉しかったです。うちは祖母が95歳で亡くなりましたけども亡くなる直前まで田んぼ・畑に出続けた祖母でしたが、一時期キウイをやりまして流行りました。最初はよかったんですけど価格が落ちてしまったことがありました。価格が落ちないように大田市場に行かせていただくと本当に市場の方はシビアですね。品質にブレがあったら生産地の死活問題だなと思うんですけども、本当に品質のことは細かく言われるなと思います。そういう中で、紅まどんなはどんなですかと聞いたら、面白いです。農業をされている方で本当に目を輝かせながら面白いですとおっしゃった、あれは我々にとっても嬉しいことでありました。これは一層進めていこうと思っていまして、3月議会がこの前に終わったところですが、4月から1年間の予算を決めるんですけども増やしました。平成26年度、紅まどんなとか甘平には灌水の整備、風や鳥を防ぐ防風・防鳥ネットの整備について、また紅まどんなにはほかにハウスの整備にも支援をしておりますけれども、生産者の皆さんからもこの事業に多くの要望をいただいておりますので、松山市としては平成26年度の予算額は5,620万円だったんですけども、平成27年は施設整備として9,701万円の当初予算を計上して議会にも認められましたので、4,081万円の増額、前年に比べると72パーセント増になります。有望品種に比べるとつくりやすい温州みかんとか伊予柑といった基幹品種も大事にしていきたいんですけど、いわゆる有望品種といわれるまつやま農林水産物ブランドに認定している

12月の紅まどんな、1月のせとか、そしてゴールドエンウィークのカラマンダリンはできる限りバックアップをしていきたいなと思っています。中古ハウスについては中田課長お願いします。

【農林水産課長】 今、市長が申しましたとおり、ハウス・点滴灌水、これらの施設整備の新設に関しては予算額を約70パーセント増額と27

年度はさせていただきました。中古ハウスの移設に関してですが、皆様ご存知だと思うんですが中古ハウスについては、もともと建てたときに県とか市の補助が入って建っているハウスがほとんどだと思います。そのハウスに対してもう一度移設についての市の補助金を入れるのかということ、ハウスの維持管理も含めてですけど、中古ハウスに関しては今のところは助成対象としないという考え方でさせていただいております。それと今、市長がお話しました新設ハウスも含めての施設整備にどれぐらいの要望があるのかということとの兼ね合いの中で今後考えさせていただけたらと思います。

【市長】 できる限りやっていきたいと思います。こんな感じになっているんですよというのを聞いていただいたらと思うんですけども、当初予算といい3月の議会で認めてもらうために1月とか2月ぐらいに各担当が来年はこういうのをやりたいですよと持ってくるんですよ。例えば農林水産課とか鳥獣対策担当が持ってくるんですけども、現場の担当としては市民の皆さんからこういう意見をもらっているんで、こういう事業をやりたいんですよと持ってくるんですけども、私とか副市長とか理財部といういわゆる大蔵省ですね、家でいうと懐を握っているお母さんです。各担当課がこういうことをやりたいと言ってくるんですけども、「そこまでやってしまうと去年の予算に比べて倍ぐらいになってしまうから、そこまではやれないなあ」とか、「タウンミーティングをやらせていただいて市民の皆さんの要望が多いから、ここはあえて膨らませてやろうや」とか、「この事業はちょっと今年は我慢しよう」とか、そういうヒアリングというのをやるんですけども、予算折衝ですね。理財部へ各担当課が持ってくるんですけども、各担当課はやりたいんですよ。鳥獣対策としてはイノシシの被害とかサル・シカを避けるためにこういう事業をやりたいです。農林水産課としてはこういう事業をやりたいですよと持ってくるんですけども、それを全部やってしまったら予算がとても間に合わないなあみたいなことがあるのでヒアリングをするんですけど、先ほど72パーセント増と申し上げたんですけども、やっぱり我々としてはできるだけ汗を流している農業者の方が報われるようにしていきたいと思いますので、できる限りやっていきたいと思っています。中間どころまで来ましたので紅まどんなのトップセールスを見ていただいたらと思うのですが、私が市長に就任させていただいて、特に力を入れてやってきました。皆さんよく聞かれますと思いますが、東京の大田市場はなぜ大田市場と言うのかということと東京の大田区にあるから大田市場です。日本一の取扱量を誇ります。東京の大田市場に行って、まつやま農林水産物ブランドのセールスをさせてもら

っています。まつやま農林水産物ブランドは農家の方の所得向上のために認定しているものですが、8種類あります。柑橘が3つ、「紅まどんな」「せとか」「カラマンダリン」。果物でいうと「伊台・五明こうげんぶどう」です。そして「松山長なす」「松山一寸そらまめ」、海のものでいうと「瀬戸内の銀鱗煮干し」「ぼっちゃん島あわび」の8種類です。今、私が大田市場にセールスに行っているのが紅まどんな・せとか・カラマンダリン。できれば松山長なすとか松山一寸そらまめも皆さんとお話をさせていただいて、できるのだったらやりたいなと思っていますが、これは私のスケジュールと皆さんとの相談次第と思っています。価格のこともあると思いますけれども、行くのはシーズンの最初に行きます。なぜシーズンの最初に行くのかというと、ちゃんと競り人さんたちに理解をしてもらう。大田市場の関係者の方に生産者の方の苦勞と工夫を理解してもらったら、いい値段を付けてもらえるんです。いい値段をつけてもらったら、いい値段でそのシーズンを引っ張れる。逆に悪い値段が付いてしまったら悪い値段で引っ張られてしまうので、シーズンの最初に紅まどんなとはこういうものなんですよ、せとかはこういうものなんですよ、カラマンダリンはこういうものなんですよというのをさせていただいています。12月の紅まどんなのセールスをさせていただいているのを、ちょっと見ていただいたらと思います。よろしくお願ひします。

※『松山市動画チャンネル 平成26年度まつやま農林水産物ブランド「紅まどんな」トップセールス』を視聴

【市長】 はい、というようなことでやっております。何でも行くことはできないので、まつやま農林水産物ブランドに認定している中で行っていない松山長なすとか一寸そらまめは皆さんとお話をしながらやることができると思っているんですが、大田市場でやることも大事ですけれども、例えば生産者お一人お一人が大手百貨店さんに行って松山のものを扱ってくださいと言ってもそれは難しいと思います。今、松山市がつながりを持って大事にしているのが、どこのデパートさんでも扱ってもらうとありがたいんですが、三越伊勢丹グループさんが百貨店グループでは一番の売上を誇るんですね。松山三越もありますので三越伊勢丹グループさんへの売り込みを強めています。また、大田市場では3分時間をいただきますと言っていたんですが、今、私が12回大田市場へ行かせていただきましたけれども、本当は大体2分しかくれないんです。2分が3分になるのは結構大きいんですけれども、100人から150人ぐらいの方が並んでいま

したかね。ほかの県の生産地の方もおいでるんですね。あるときは婦人団体の20人ぐらいの方がものすごくよく聞いてくれまして、何であんなによく聞いてくれたのだろうかと思うと、静岡の三ヶ日の生産地の方々が来られていたんです。そういう生産地の方々やデパートのバイヤーさんも来られ、そういう方々の前でセールスをしております。朝の忙しい時間ですから、あまり長いことされたら困るので、でも松山市はもう12回も来ているので市長は3分あげますからと、倍近くの時間をいただいてやっております。今、首都圏の大手百貨店さんとの連携による集中プロモーションは、私が就任した平成22年度は1店舗だったんですが、今はおかげさまで33店舗まで拡大することができました。当初は紅まどんなの販売は1店舗で32万円の実績だったのですが、この4年で11店舗で540万円、集中プロモーションのときだけでこれだけ増えるようになりました。ブランド商品の新規取扱いは延べ104店舗に広がっております。これからも私の持ち味だと思っていますので、大田市場でセールスをすること、そして百貨店さんに行って「松山のものはいいですから扱ってくださいよ」というのは、熱意を持ってやらせていただこうと思っていますので、また皆さんと連携をしながらやりたいと思います。アニメを使って説明をしていましたけれども、実はあのアニメもお金を使ってやっているのではなくて松山市の職員で漫画を描くのが上手い職員がいますので、そういう職員に描いてもらう。写真を撮るのが上手い職員もいますので、写真をきれいに撮ってそれでやるという、できるだけお金をかけない方法で売上を増やすようにやっていますので、また皆さんもご協力いただけたらと思います。よろしく願いいたします。

【男性】 松山市農協です。私からは農業用の廃プラスチックの関係のこととお願いをしたいと思っております。今まで発表をされた方は生産に従事されておられる職員であろうかと思いますが、私は資材供給をさせていただいていますので、そちらのほうからお願いをしたらと思っています。産業廃棄物、農業の廃プラスチックの処分についてというスライドがあると思いますが、今までお話がありましたように、つくるためには中古ハウスであろうと新規ハウスであろうとビニールをかけないといけません。ビニールをかけると、どうしても数年のうちには廃棄ということになってこようかと思っています。農業のビニールハウスはポリマルチや自然の畔シートをご存知だと思いますけど、農業用の肥料や農薬等の容器あたりが産業廃棄物になります。適正に処分をしなければ、犯罪行為というか1,000万円以下の罰金、5年以下の懲役という法的なことにもなりますし、今ま

での流れの中では自然環境をいかに守っていくかというのも農業の1つの大きな目的であるかと思います。野積みとか不法投棄とか、野焼きとか、環境へ悪影響を与えるところが非常に多いので、それを回避しようと我々農協も農家と一丸となって回収に努めています。また、愛媛県とか各行政にもご支援をいただいているところで、農業用の廃プラスチックの処分状況ということで、松山市の関係者だけでございますけど、200人前後毎年排出しています。毎年こういうのをやっているわけですが、やはりまとまって持ってこられるので波がありまして、多いとき少ないときあるんですが、200名から250名前後を行ったり来たりして量も多かったり少なかったりするんですが、12～13トン前後の量が出ています。これは処分料金はだいたい31円/kgでして、処理費用は40万円から50万円前後が農家の負担になっているところでございます。農協もこの費用の4割程度は助成をさせていただいております。私のところには2市2町、東温市、松山市、久万高原町、松前町ということでテリトリーがあるわけですが、その中からもいくらかずつ、諸事情によって助成をいただいているところでございます。松山市内も先ほど来、みかんの根とかねぎ・トマトの根に必ずビニールとかそういうものが発生してございます。つくるのはいくらつくっていただいても構わないのですが、どう終いをするんだという、野積みはだめよ、投棄もだめよと自ら責任を持って処分をしようと農協も協力して支援もしています。ひとつ行政もご協力をお願いできたらと思って今日提案させていただいております。いい方向で話をいただいたらありがたく思っております。

【市長】 私からお答えをいたします。おそらくできると思います。実はご紹介したとおり松山市もハウス栽培のお勧めをしているので、最初だけは勧めるけど後は知らないのかということになりかねません。今後、貼り替え更新なども含めて農業用の廃プラスチックもますます増えると思います。松山市は両JAさんが設置している、皆さんご存知の農業用廃プラスチック適正処理推進協議会、この処理する処理事業費に対して平成12年度から16年度までの5年間は総額でおよそ400万円を補助していました。今、協議会の会費の補助はしているんですけども、処理する事業費に補助は平成16年度を最後に支援していない状況となっております。当時の農業用の廃プラスチックは、農家の皆さんが自らが処理すべきものではあるんですけども、農家が野焼きとかご自分の畑に野積みなどをして処理をしている状況であったので、環境保全やまた施設園芸の推進を図るために支出をしていました。5年間の取り組みの中で農業用の廃プラスチックが適正に処分されることが定着したので、補助金の交付を終え

ていたんですけども、当時と現在の状況が大きく変わっておりますので、今後処理費に関係をする補助について前向きに検討したいと思っております。また皆さんと協議をしながら詰めたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。これは松山市単独でやるとなかなか難しいところがあるので、両JAさんもやっていただく、そこへ松山市も協調というかたちでお願いできればと思います。

【男性】 えひめ中央農協です。よろしく願いします。私からは既存品種の維持に対する政策ということでお願いできたらと思います。スライドをよろしく願いします。年明けから松山市さんには伊予柑の生誕60周年記念という還暦祭で大変お世話になったことをこの場をお借りしてお礼申し上げます。既存品種の宮内伊予柑は全国の生産量で50%を松山市が占めているということです。この品種を維持していきたいということで、維持するためには老木園を若い園地に変えていくと苗木が必要になってきます。苗木の導入に対して今まで色々な事業があるわけですが、同一品種から同一品種というのがなかなか今まで難しかったところがある。それと改植は先ほど作業支援の関係もありましたので、農協の内部でもそういった改植に対する作業支援も検討しているというところではありますが、とりあえずは苗木に対する助成を何とかならないかなということがまず1点あります。それと傾斜地の作業の軽減のための作業道の設置ということで、ある程度できているところもあるんですけども、松山市でいいますと中島を含んだ島しょ部はなかなか遅れているところがあるのかなと思いますので、そういったところの作業道の設置。そして、2点目になりますけれどもキウイフルーツの関係。去年はキウイのかいよう病で松山市にも大変ご尽力いただいたことをこの場でお礼いたします。そのキウイフルーツは全国で松山市は3%ですが、愛媛県が全国のトップ産地で愛媛県全体では約300ヘクタールくらいありまして、その中で松山市は62ヘクタールを超えております。松山市農協さんの9ヘクタールを足すともっとということになっていますが、先ほど言いましたかいよう病と立ち枯れ病というのがあります。そういった中でこの2～3年前からシマサルナシの台木が、一応耐病性の台木ということで、今、試験機関でも始まっているわけですが、我々としまして苗木業者を通じた中で種子を送って増殖してもらおうわけなんですけれども、なかなか種で1万粒くらい撒いても千本も残らないという状況になっております。特に増殖しやすいのは挿し木の関係ということで、ここでお願いしたいのは指導農場を利用した中でのシマサルナシ台木、いわゆる耐病性台木の増殖のご協力を願えないかという

ところであります。私からはその2点ばかりご検討を願えたらと思います。

【農林水産課長】 まず伊予柑の老木更新についてですが、伊予柑が基幹品種として温州もそうですが、柑橘農家の経営を支えていることは認識しています。現在、品種更新、温州、伊予柑から変えている状態と合わせて老木更新という中で注力していくときにどう軸足を置いていくのかというのがあります。ご存知だとは思いますが愛媛県の事業で「果樹戦略品種供給力強化事業」があります。この事業は23年度から27年度までは確実に続きます。ですから、その事業をできるだけ活用していただいて、その後に協議させていただけたらと思っております。次に作業道の関係ですが、特に柑橘園地は施設整備というか作業道が必要と認識しています。事業化するにあたっては、別の課との協議も必要ですので、この場で即答させていただくというのは控えさせていただきたいと思っております。農林水産課でもブランド品の推進に合わせて一部作業道の補助事業を3年間やっていたので、その検証も合わせてという意味でまた後日改めてご回答させていただけたらと思っております。それともう1点のキウイフルーツのシマサルナシの台木の話をお伺いいたしました。26年度にPsa3系統が発生してからのJAさんとか農家さんのご苦勞、行政も大変でしたけれども、台木育成は松山市の中で可能なのは農業指導センターです。先ほどもお話させていただきましたように農業指導センターでは、現在、野菜苗や柑橘苗の育成を周年でやっています。人的またはその場所の確保についてどこまでできるのかというところもありますので、また改めてJAさんと協議させていただいて、どうかたちでどこまで協力できるかをお話させていただけたらと思っておりますのでご理解いただきたいと思います。

【女性】 JA松山市です。農業塾とめぐりスクールに対する支援のライドをお願いします。JA松山市では地域の大人と子どもが土にふれあひながら野菜を育てる体験塾を開いております。大人対象のほうは農業塾といいます。農業塾では定年退職者や就農希望者を対象に土づくりや病害虫防除などの基本技術の習得や高品質でおいしい農産物をつくるためのコツを教えており、最終的には農業者の育成を最大の目標としています。JA松山市の特産である松山長なすや白ねぎ、レタスなども栽培しています。農業塾は今年で5年目に入りますが、毎年約15人を受け入れており4年間で延べ60人が卒業しました。その内7人の卒業生が就農し4人がJA出荷に取り組み、3人が直売場の出荷を始めております。松山市内の農地で開催しており、年間を通じて先ほどの特産品のほか、参加者が希望するものを加え多くの種類の野菜の栽培に取り組んでおります。この事業は今

後も継続していきたいと考えておりますが、借地料のほか肥料や苗代などの費用が負担となっております。経費の一部を助成していただけませんかというお願いです。続きまして地域の子どもたちの食育についてご説明いたします。JAグループでは食育という言葉ではなく食材をつくりだす農業のプロセスを含んだ食農教育という言葉を使います。JA松山市ではあぐりスクールを開講して今年で6年目となります。小学校3年生から6年生の約30人に対し、年間を通じての食農教育、種をまき野菜の世話をし調理して口に入れるまでのカリキュラムを提供しています。目的は子どもたちに食と農の大切さを伝えることなどですが、ほかにも大きな目的があります。入所1年目から3年目の若い職員に農業体験をさせることと、また子どもたちの先生役としてイベントに関わることで、人としてもJA職員としても成長させたいという目的があります。あぐりスクールは子どもにとっても職員にとってもいい経験になっていると自負しておりますが、会を重ねるごとに若手職員の悩みは増えています。それは子どもとどのように接すればよいかということ。どのように叱ればいいのか、どうすれば静かに話を聞いてくれるか、元気が良すぎる子のメリハリをつけて指導させるにはどうすればいいかなど悩みはつきません。そこであぐりスクールのスタッフである私どもの職員に子どもの指導に関する知識やテクニックをレクチャーしていただける方を紹介していただきたいと思っております。小学校の元校長先生など教育のプロをご紹介していただける窓口や疑問にお答えいただける方を紹介してくれれば大変ありがたいと思っております。よろしくお願いたします。

【市長】 私からお答えさせていただきます。1年目から3年目の職員さんがやられているのは、いろいろなことを考えられているなどこちらも敬意を表したいと思っております。紹介をしてくださいということですが、できます。今日、ちょうど松山市に来てくれていたのですが、松山市では立岩・中島・坂本・興居島の4地区で地元の委員会主体で農業や漁業、文化体験するという事業をやっております、つくったものを販売してその売上金を東日本大震災の義援金として今日ちょうど持ってきてくれたところです。そういうのを毎年やっていますのでノウハウがあります。ですので、教員OBが経験を活かした事業を行っていますので、担当は教育委員会の地域学習振興課というところが担当になりますので、早速、我々のタウンミーティング課から地域学習振興課へJAさんから連絡がかかると言っておきますので、すぐに行けるようにしておきますので遠慮なく相談をしていただけたらと思っております。また、先ほど申し上げた農業塾とあぐりスクールの支援のことですけど、4月1日から来年度からやります「多様な担



い手育成支援事業」を実施しますので、それと組みこんでいけるんじゃないかなと思います。先ほど課長から4つハードルがあると申し上げたのですが、もう1回おさらいをすると農業参入の壁は4つ。技術習得の壁、農地を確保する難しさ、初期費用の高さ、そして未収益期間が存在すること。収益が入ってこない時間があります。その4点を整理させていただいて、これまでの事業では対応が難しい技術の習得の支援と、初期費用を低くすることに重点を置いて松山市として新年度から新しい独自の支援を行うことにしています。このJA松山さんの農業塾の取り組みはまさにこの事業の趣旨に合致をしますので、支援の対象となる生産者組織は今後公募することになるんですけども、JAさんにはぜひ支援事業への応募を検討していただくとともに、支援事業が実りあるものになるように制度の詳細の設計にご協力をいただきたいと思います。2つのところで連携できるかなと思いますので、よろしく願いいたします。

【男性】 えひめ中央農協です。私からは農業者の高齢化に対する施策について質問させていただきます。スライドをお願いします。現在、えひめ中央管内は多くの急傾斜地、また傾斜地の園地を抱えております。そのような園地は水はけもよくて、非常に高品質な温州みかん、あるいは宮内伊予柑が生産されています。しかしながらお年を召した方は傾斜地の園地の農作業で、特に施肥・収穫・運搬作業あたりが非常につらくなっているということがあります。そういった中で解決策としては先ほどの質問と若干かぶるかもしれませんが、歩行型の作業道掘削機により簡単な幅1メートル前後の小規模な一輪車が通るような1メートル程度の作業道を設置して、作業者の向上を図っていくことが大切だと考えております。また、生産者の高齢化の中、重労働が改善されたら優良園地は維持されていくものと考えております。そこで小規模の園内で簡易的な作業道の設置のための作業道掘削機の費用、またそのオペレーターの人件費の助成と松山市さんのご協力、また今後JAと一緒に考えていただきたいと思います。以上、検討のほどよろしく願いいたします。

【農林水産課長】 高齢化に伴って特に急傾斜地の柑橘園地で作業がしにくいというのはよくわかります。これは機械を使ってJAさんが作業道を設置されるということですか。わかりました。それについては一度持ち帰らせていただきたいと思いますのですが、またJAさんで計画をより具体的に練っていただいて、その中でどういうことができるのかという考え方を固めていただけたらと思っています。固まった段階でまた改めてご協議させていただくということでご理解をお願いいたします。

【市長】 これは本当に頭が痛いですね。中島から帰るときなんですけど、船に乗るときに島の人から「市長さん、この農地やみかんの園地がこれからいくら残っていくのですかね」という話を聞いて、本当に頭が痛いなど思うんですけども、高齢化しているので平坦なほうが作業はしやすいですよ。でも、もともと優良な園地だからやっていらっしゃるのだから、そういう園地が高齢化の中でどうしていくかは本当に悩ましい問題だなと思っています。

【男性】 えひめ中央農協です。農業基盤強化のための市とJAの連携強化について提案させていただけたらと思います。スライドをお願いします。これは先ほど話も出てきたんですけども、今年の1月の14日に「いいよかん」というのをもちった宮内伊予柑の還暦イベントの写真ですけども、このイベントは本来ならえひめ中央農協が主催でやりたかったんですけど、宮内伊予柑60周年ということで、松山市さんとうちの平田支部が主催で、潮見小学校の小学生が摘んだ宮内伊予柑を道後温泉の椿の湯の前で配って伊予柑風呂、温泉風呂にしてもらおうというイベントでございました。非常に優れたアイデアであったと思います。農協の我々も手伝ってはいるんですけども、その後にテレビとか新聞報道で、うちの宮内伊予柑還暦祭のイベントにもつながりまして、大いに宮内伊予柑の消費拡大のアピールにつながったと実感しております。今後ともこういった地域住民や観光客を相手にした農産物のアピールとか、農業に対する理解を進めていけるようなイベントを一緒にしていただきたいとお願いをしたいと思います。もちろんイベントだけではなく、最初に取り組みを紹介した新規就農生の受け入れの件とか、耕作放棄地対策とか課題は少なくありませんので、こういった課題を解決するためにも定期的な松山市とJAとの間の担当者会議の開催とか、JAの現場で開催されております会議等へのご参加を通じて意見交換を進めていって、一緒になって営農振興とか販売促進を進めていただけたらと思います。よろしく願いいたします。

【市長】 これ、ちょっと私の記憶が間違っていたら申しわけないのですが、実はこういうふうに進んでいったんですというのをご披露させていただいたらと思います。東京の大田市場に行かせていただくときに、私どもだけでなくJAさんも一緒に行っていただきます。宮内伊予柑が今年60年だというのを聞きまして、ちょっと共通点があったんですね。去年、道後温泉本館の建物が120周年になりました。普通120年というと、100年と150年の間かと思われるんですけど、そこはひと工夫で人間60年を迎える人を還暦といいますけど、人間120歳まで生きる人はなか

なかないので大還暦ということで大変祝うそうです。じゃあ、道後温泉本館も100年と150年の間じゃなくて120年の大還暦だということでお祝いをさせていただきました。道後オンセナートとかやりまして10年間で1番の道後温泉のホテル・旅館の宿泊数を記録することができたんですが、宮内伊予柑が60年だと聞いて「還暦じゃないですか、めでたいじゃないですか」とお話をしていると、「伊予柑は今の紅まどんな・せとかに比べると比較的作りやすい。野志さん、こんな第一線級をずっと持続している品種はなかなかないですよ」と教えていただいて、これはすごいことだと。宮内伊予柑が発見されたことも聞かせていただいたので、これは知っていただきたいと思いました。伊予柑、いいよかんで本当に縁起もいいですからもっと地元の方に知っていただきたい。こういうふうにして宮内伊予柑は生まれて、一線級でずっと戦い続けている品種ですよというのを知ってほしくて何かイベントやりましょうよと秘書課に言った。できれば伊予柑風呂できないかなあということ言い出したんですけども、じゃあどこの伊予柑を使う、消毒するのは知っていますから消毒したのをそのままお風呂に入れたのではいけないので、じゃあどうするという話ですとか、じゃあどこのお風呂を使わせていただくのか、民間のお風呂を利用させていただいて伊予柑風呂とするのか、そういうときに私どもの松山市椿の湯が手を挙げてくれて、うちを使ってもらって構いませんよと言ってくれたので、じゃあ椿の湯でやろう。できたら椿の湯に伊予柑を浮かべて入浴している方が「ああ、ええ香りやね」というところをやりたかったんですけども、日中になります。どうしても子どもたちに知ってほしかったので、子どもたちに出ていただこう。これは松山市の教育委員会等の案件になるんですけども、嬉しかったのは担当が「1月14日にやりましょう。1時14分にやりましょう」と言ってくれたので、より注目度が上がって当日はテレビ局は4局と新聞社5社が来てくれて、だいぶ伊予柑のことをいろいろ広めることができました。ですので、私が知ってほしいなと思って、それを皆さんが受け止めていただいてよく協力していただけたんじゃないかなと改めてご協力いただいた方に感謝を申し上げたいと思います。皆さんと一緒にいい取り組みができましたよというので松山市内の全ての家庭に配布される広報まつやまに取り上げさせていただきました。1面です。今日連携という話をさせていただきましたが、我々がJAさんと連携させていただくことで、重ねて申し上げますが、1+1が2じゃなくて3になり4になり5になる取り組みができます。広報で上手くやっている仙台市役所とか神戸市役所の話を聞かせていただいたんですが、これ上手いなと思ったんですが、松山市が記者会見するだけだっ

たらちょっと当たり前で面白くないんですよ。松山市とJAさんが並びで記者会見をすると、またこれも1+1が3になり4になり5になる取り組みができますので、JAさんと色々な取り組みを連携しながら共同主催をする。共同で記者会見をする。例えば、今度3月31日には松山市と愛媛大学が共同の取り組みをするので、松山市と愛大が記者会見をするんですけども、こういうふうに連携をすることによってもっと可能性を高めていくことができると思いますので、さまざま連携をさせていただいて取り組ませていただいたらなと思っています。時に私も熱い男ですから思いが先走ってしまって皆さんにご迷惑をかけることがあるかも知れませんが、皆さんはまさに豊かな経験と豊かな知識をお持ちのJAの皆様方ですので、「市長、これはこういうふうにしたほうがよりいいと思うよ」と連携させていただいたら、本当に市民の皆さんや生産者の皆さんに喜んでいただける取り組みができると思いますので、お力添えのほどよろしくお願ひします。

【男性】 松山市農協です。イチゴの栽培者に対する栽培ハウス等の施設の支援をお願いしたいのですが、皆さん補助事業等をお願いしているので、僕は別のほうで支援をお願いしていきたいと思っています。今シーズン、イチゴの「紅い雫」が報道等で発表されて育成品種ということでもいろいろと各方面から問い合わせ等あると思うんですが、松山市として今後「紅い雫」を推進していくのかどうかを聞きたいということと、今、全農を通して出荷先として県内市場と大阪・関西の市場がメインとなっているんですが、愛媛県が推進しているのは関東の大田市場のほうにものを送りたいと言っているのですが、そこが現場と大きなギャップがあるのではないのかなと思っている次第でございます。そこで、先ほどみかん等は大田市場で頑張っている等もお願いできているんですが、関西等でJAの実情を踏まえた宣伝等もお願いできないのかなというところをご質問したいと思ひます。

【農林水産課長】 「紅い雫」は、今、県下で栽培試験中ということですのでよろしいですね。

【男性】 もう、実際に出荷もされている方がいるということですか。

【農林水産課長】 これからも増えていく状況にあるという理解でよろしいですね。まず栽培試験中、これから増えていく、現段階で実際にそれをご覧になられた方、栽培されている方たちのお話を伺いながら、松山市としては今後「紅い雫」に対応して取り組んでいくということでご理解いただきたいと思います。それともう1点の販売先のお話ですが、市として

どこまで関与するかというのはありますが、今のお話を県を交えて市も入ってということは可能です。そういうところでまた連携しながら進めさせていただけたらと思います。

【司会】それでは時間がまいりましたので、最後に本日のまとめを市長にお願いします。

【市長】今日は皆さん本当に年度末のお忙しいところご出席をいただきましてありがとうございます。ひょっとしたら時間がなくて本当はもうちょっと言いたかったんだけど言えなかったなという方がいらっしやいましたら、松山市は市長への直接のメール制度を設けております。「わがまちメール」といいますけれども、松山市のホームページを見ていただいたら、市長への「わがまちメール」というコーナーがあります。これは直接市長のところへ意見が届くことになりますので、遠慮なく言っていただけたらと思います。今日、重ねて申し上げますけどもやっぱり皆さんとの連携が大事だなと。農協さんは農協さんで農家の方に良かれという策をいろいろ展開されると思います。松山市も同じで経緯を深くは知らないですけども、農林水産業は第1次産業じゃないですか。第2次産業じゃなくて第3次産業じゃなくて、やっぱり第1次になっているんだからそれなりの意味があると思うんですよ。農林水産業は口に入っていくものですから、安全なものをつくっていただくという観点で、食というのはものすごく大事なものですから、やっぱり第1次産業なんだろうなと思って、農業は特に大事にしたいなと思っています。県の話が出ましたけれども、愛媛県と松山市はしっかりと連携して物事を進めます。県がやるんだったら松山市は知らないとか、そういうことになったら県民・市民の皆さんの不幸せにつながると思います。やっぱりさまざま連携して取り組めることが県民・市民の皆さんの幸せだと思いますので、「もう農協さんがしているんだったら、松山市は知らないです」とか、そういうことでは県民・市民の幸せにつながっていかないと思いますので、やっぱり反目するんじゃなくて連携をして1+1が3になり4になり5になり、足し算じゃなくて掛け算の関係になればいいんじゃないかなと思いますので、これからもさまざま本音の話し合いの場を設けたり、先ほど紅まどんなのときに話をしましたけれども、「紅まどんなはどんなですか」、「面白いね」と言ってもらえるような、そういう農業者の方を紅まどんなだけでなく、せとかだけじゃなくてカラマンダリンだけじゃなくて広げていきたいと思っていますので、またよろしく願いいたします。今日は本当に年度末でお忙しいところ皆様方にはお集まりをいただきましてありがとうございます。一旦持

ち帰らせていただきますご意見は、また1カ月を目途にお返しをさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。これからも皆さんと意見交換できる関係であり続けたい。共に幸せを実感していただけることをやっていきたいと思っておりますので、これからもよろしくお願いいたします。今日は本当にありがとうございました。

— 了 —